

1. 件名：原子力エネルギー協議会及び日本機械学会との面談
2. 日時：令和6年2月16日（金）13：30～15：25
3. 場所：原子力規制庁7階会議室
4. 出席者：

原子力規制庁

技術基盤グループ

技術基盤課

佐々木企画調整官、藤澤技術参与（オンラインでの参加）、山田補佐、戸田係員

システム安全研究部門

小嶋統括技術研究調査官（オンラインでの参加）

検査グループ

専門検査部門

宮崎企画調査官、南川上席原子力専門検査官

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（JAEA）

安全研究センター 材料・構造安全研究ディビジョン

経年劣化研究グループ 山口研究副主幹

日本機械学会 発電用設備規格委員会 副委員長 他7名

原子力エネルギー協議会 副長 他1名

5. 要旨：

- 令和6年1月26日のATENA及びJSMEとの面談で、発電用原子力設備規格溶接規格（2020年版）について技術評価を要望する理由等を更に説明してほしいと依頼した。
- ATENA及びJSMEから、資料1～4に基づいて説明があった。
- 原子力規制庁から、このうち資料1において、「現状の施工法の保有数」が記載されているが、このうち、溶接規格（2020年版）に規定された組合せに用いることが可能な施工法（溶接施工法の認証が省略できる可能性のある施工法）の数がどの程度かを例示するよう依頼した。
- また原子力規制庁から、第6回設計・建設、材料及び溶接に係る日本機械学会の規格の技術評価に関する検討チーム会合で説明する資料としてまとめるようATENA及びJSMEに依頼した。
- ATENA及びJSMEから、対応する旨の回答があった。
- JSMEから、資料5として設計・建設規格及び材料規格に関する日本機械学会への説明依頼事項（その4）に対する回答を受領した。

6. 配布資料：

- 資料 1 日本機械学会 溶接規格 2020 年版 溶接施工法の組合せ及び溶接士技能試験を技術評価対象として頂く理由について
- 資料 2 溶接施工法の組合せについて
- 資料 3 溶接技能更新試験の規定に対する説明
- 資料 4 発電用原子力設備規格 溶接規格 2020 年版の規格使用者レビューについて
- 資料 5 設計・建設規格及び材料規格に関する日本機械学会への説明依頼事項（その 4）
（案）